

平成22年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体2010】
(第78回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成22年8月17日(第1日)

会場: プール

ゲームNo

4

帽子の色 白	1回戦④	青	帽子の色
青森県立青森商業高等学校	$\left\{ \begin{array}{l} 0 - 5 \\ 0 - 2 \\ 1 - 4 \\ 0 - 9 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\}$	三重県立四日市中央工業高等学校	
1		20	
天候: 晴れ		審判1: 榎本 隆	
		審判2: 岡 弘樹	
戦 評			

青森商業は東北大会を2位で通過し、6年ぶりのインターハイ出場を決めた。得意のカウンター攻撃で初戦突破を目指す。四日市中央工業は東海大会を2位で通過し2年連続の出場となる。今大会では上位入賞を狙える位置にいる。

1P 四日市中央工業は開始早々マンツーマンからカウンターを繰り出し6:25青⑧柿市がゴールを決めた。白③阿保がフローティングで対抗するがシュートまで届かない。四日市中央工業の鋭いマンツーマンからのカウンターで青⑧柿市、青⑤田中亮祐、青⑫大野が次々に連続3得点をあげた。何とか1点返そうと白③阿保のカットインや白⑤飯田のミドルシュートで反撃を試みるが得点には結びつかない。残り0:39には青⑦加茂が相手のパスミスから早い飛び出しでゴールを決め、このピリオドは0-5と大差がついてしまった。

2P 青森商業は相手のカウンターをケアし、1人攻撃に参加させずハーフラインで待機させる作戦をとったが、これによりオフェンス時に一人少ないため白④船橋をダブルチームで守られてしまい、なかなか得点につながらない。しかし、1ピリオドの一方的なカウンターの流れが無くなり、このピリオドの失点は青⑫大野、青②棚橋の2得点に抑えることができた。オフェンスでは白④船橋のカットイン、白⑤飯田のフリースローシュートが惜しくも実らず。2:25に白③阿保が退水を誘発したがシュートを打つ前にインターセプトされてしまい、このピリオドは0-2となり、前半を0-7で四日市中央工業が大きくリードして折り返す。

3P 青森商業はチーム数7名という選手交代ができない状況に対し、四日市中央工業は選手交代を巧みに使いゲームを展開しているため体力に余裕があるのか選手の動きに切れが出てきた。青⑫大野がカウンターで得点、その後青③松川が退水を誘発すると、青④田中浩貴がパワープレーで得点を重ねる。ここで青森にチャンスが生まれた、ゴール前で白⑤飯田が退水を誘発し、リターンパスでシュートを放ったが惜しくもゴールを揺らすことはできなかった。逆にこのパワープレーのシュートミスに素早いカウンターで応戦し青⑧柿市がゴールを揺らした。四日市工業の動きはさらに良くなり3:02青⑫大野が速攻からの意表を突いた技ありの5mシュートを決めた。なんとか1点欲しい青森商業のキャプテン船橋がここで動いた。攻撃の人数が少ない中、左サイドから鋭いカットインを繰り出し念願の1点をもぎ取り1-11でこのピリオドを終了した。

P4 第3ピリオドで1点を返した青森だが、四日市中央工業の勢いは止まらない。6:34青⑧柿市が速攻で得点をあげると、青⑬岡、青⑪藤井、青⑦加茂がそれに続き3点連続得点。白④船橋も5mシュートやカットインで応戦するがパスが繋がらず得点できない。ここで最後にたたみかけるように四日市中央工業の攻撃が炸裂した。青⑫大野が5点目となる得点をたたき出すと、青⑪藤井が得点し、最後には青⑧柿市が爆発し連続3得点をあげ、この試合で7点という高い決定力を見せつけた。

四日市中央工業は昭和53年にベスト4に入賞しており、今年はそれ以来の上位入賞に大きく期待したい。また、青森商業の最後までゴールに向かっていく姿勢には観客全員が惜しめない拍手を送っていた。

記 録 者

坂本 博文